

元田久治展

2011年9月26日(月)～10月22日(土)

午前9時～午後5時 日曜休館

入場無料



▲「Indication-Flinders Street Station (Melbourne)」69×105cm リトグラフ 2010年

トークイベント

日時：10月1日(土) 午後2時～4時
 会場：0805教室ならびにC・スクエア
 聴講無料 予約不要 (定員89人)
 ■トーク終了後、午後5時までレセプションを開きます。

中京大学アートギャラリー C・スクエア

〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町 101-2 (名古屋キャンパス4号館1階)
 (名古屋地下鉄名城線・鶴舞線「八事」駅下車、北改札口經由5番出口直結)
 TEL: 052-835-5669 www.chukyo-u.ac.jp/extension/gallery/index.html

幻視されたパラドクス

中尾秀博 (中央大学文学部教授)

〈既視感〉

3.11が語られるとき「想定外」という言葉が使われる。だが、元田久治の作品を眼にしていた者は「既視感」を覚えたはずだ、元田の手によって3.11の光景が既に作品化されていたという「既視感」を。これは9.11の崩落シーンを思わず「ハリウッド映画のようだ」とつぶやいた目撃者の感想と似ているかもしれない。

元田作品を観る者の頭の中では、現在から未来を照射した「想定」と現在から過去を回顧するかのような「既視感」とがオーバーラップする。元田が幻視するのは、そのようなパラドクスの光景なのだ。

〈スタジアム〉

元田作品に描かれる建築様式のなかで歴史的に最も古いものはスタジアムだろう。ローマのコロッセウム遺跡でおなじみの様式で、今回の展覧作品ではメルボルン（オーストラリア）のクリケット競技場「MCG」とサンフランシスコ（米国）の野球場「AT&T」が該当する。

イタリアの銅版画家ピラネージはローマの遺跡景観を記録した作品集でゲーテの名紀行『イタリア旅行』を触発したことで有名だが、「カンポ・マルツイの大地形図」(1762)というシリーズではローマ中の廃墟を過剰なまでに復元した空想の古代ローマを描いている。建築家としての素養を活かすに留まらず、想像力を奔放に働かせすぎて考古学的事実から逸脱していたようだ。

元田作品では時間を未来に早送りしたかのような風化（あるいは廃墟化）した状態が幻視されているが、「MCG」と「AT&T」に関しては単にピラネージのコロッセウム復元（＝時間の巻き戻し）の逆方向を狙っただけではない。荒れ果てた無人のスタジアムを照らし出す照明灯の光線（＝廃墟をショーアップする元田の眼差し）が作品の時空間に一種のねじれを与えている。審美的にも哲学的にも独特で、効果的な照明だ。古代ギリシアのオリンピックを始源とするスタジアムの表象の歴史に新たなイメージが加えられている。

〈ランドマーク〉

「フリンダーズ・ストリート・ステーション」はオーストラリアで最古の同名の駅を駅前交差点を挟んだ対角線上の正面から眺めた作品であるが、ここはメルボルンで最も交通量の多い交差点である。画面に向かう視点の背後にはセントポール大聖堂が建ち、駅舎の大通り

を挟んだ左側にはフェデレーション・スクエアが広がっていて、メルボルンのランドマークが集中しているスポットでもあるから、普段は行き交う人々の波が途切れることはない。

そのような繁華な場所から人気（ひとけ）を奪い、駅舎を崩したものは何だったのだろうか。3.11後の日本人は地震と津波の被害を、更には放射能汚染を想像するだろう。9.11直後だったテロを連想していたかもしれない。米国人は今でも一番にテロを想起するのだろうか。

交差点に放置されている様々な車両のダメージは駅舎ほどではないように見えるが、中央の乗用車が路面に埋まり、その路面には不規則な亀裂が走っている様子は洪水後に水が退いた跡のようにも見える。天災か。人災か。ヒントはあるが正解は見当たらない。

元田は自ら撮影した写真を元に、リトグラフを制作する過程で廃墟化（あるいは風化）を施す。その精緻な手作業を神業と呼ぶのはクリシェかもしれないが、そこにはデモニッシュな破壊衝動が働いている。

〈シドニー・オペラハウス〉

07年に世界遺産登録されたシドニー（オーストラリア）のオペラハウスはその独特の形状でよく知られているが、シドニー湾を臨む絶好の立地も手伝ってヨットの帆あるいは貝殻に見立てられたりする。構造的にも強固なフォルムを設計したのはデンマーク人の建築家ヨーン・ウツソンだった。

元田の「オペラハウス」を見ると、建物を支える土台部分に比べてオペラハウス本体の損傷が少ない。画面左側の遠景にアーチの右側が見えるハーバーブリッジの、遠目にも深刻そうなダメージとは対照的だ（因に元田の「ハーバーブリッジ」では遠景にオペラハウスが臨めるが、ほとんど無傷に見える）。元田は破壊する建築物の強度のリサーチを怠らない。この元田らしい壊し方は、結果的に、ウツソンの設計の優秀性を証明している。

一方で、元田「オペラハウス」はドイツ・ロマン派の巨匠フリードリヒの「水海」(1823-24)の構図と相似している。崩壊したオペラハウス一帯の様相が北極圏の氷山の形成する廃墟のようなフォルムに（遠景左手のブリッジも含めて）見事に重なる。シドニー湾の景観を水海の廃墟に重ねた元田の幻視によって、太古よりの先住民の地に新しく築かれた世界遺産オペラハウスの反＝自然性が浮き彫りにされて見えてくる。

〈侘び寂び/反＝文明〉

西洋の廃墟画では繁茂する植物は文明の敗北を象徴するが、文明／自然の対立構造が稀薄な侘び寂び文化の伝統を意識する元田は、作品に加筆する緑（たとえば第二期の「東京駅」）に西洋的二項対立を超えた再生・希望の兆しを託しているのかもしれない。これも元田ならではの幻視光景のパラドクスではないだろうか。

元田久治 (もとだひさはる)

- 1973 熊本県出身
- 1999 九州産業大学 芸術学部 美術学科 絵画専攻卒業
- 2001 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画（版画）専攻修了
- 2009-2010 文化庁新進芸術家海外研修制度研修員（オーストラリア、アメリカ）

〔主な個展〕

- 2007 熊本市現代美術館ギャラリーⅢ（熊本）
- 2008 養清堂画廊（東京）
- 2009 AIN SOPH DISPATCH（名古屋）
hpgrp GALLERY東京（東京）
- 2010 Victorian College of the Arts, the University of Melbourne（メルボルン、オーストラリア）
- 2011 Murata & Friends -Neo-Ruins-（ベルリン、ドイツ）

〔主なグループ展〕

- 2008 VOCA展2008 現代美術の展望-新しい平面の作家たち（上野の森美術館）
空は晴れているけど-浜口陽三と元田久治、小野耕石、空谷圭章-（ミューゼ浜口陽三・ヤマサコレクション／東京）
- 2009 メリー・ゴー・ラウンド-煌めきと黄昏-（熊本市現代美術館）
現代絵画の展望 12人の地平線 東京ステーションギャラリー企画（旧新橋停車場鉄



- 道歴史展示室)
- 2010 水景頌 画廊50年の軌跡（不忍画廊／東京）
版画の色ーリトグラフ（文房堂ギャラリー／東京）
内在の風景 -Immanent Landscape-（West Space／メルボルン、オーストラリア）
On View: New Work from Kala (Kala Art Institute Gallery／パークレー、アメリカ)
収蔵作品展 幻想の回廊034 -Imaginarium-（東京オペラシティーアートギャラリー）
- 2011 I 氏コレクション展（高崎市美術館／群馬）
JAPANCONGO -Jean Pigozzis collection-（Centre National d Art Contemporain／グルノーブル、フランス）
内在の風景展 -Immanent Landscape-（小山市立車屋美術館／栃木）

〔受賞〕

- 2001 神奈川国際版画トリエンナーレ2001 準大賞（神奈川県民ホールギャラリー）
- 2002 日本版画協会展 日本版画協会賞（東京都美術館）
第34回ジョール国際美術家シンポジウム Chief Prize（Municipal City Museum／ジョール、ハンガリー）
- 2003 第11回プリンツ21グランプリ展 特選（東京）
- 2009 日本版画協会展 準会員優秀賞（FF賞）（東京都美術館）

〔パブリックコレクション〕

- 町田市立国際版画美術館（東京）、府中市美術館（東京）、佐喜真美術館（沖縄）、上山田文化会館（長野）、Municipal City Museum（ジョール、ハンガリー）、熊本市現代美術館（熊本）、東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）

http://web.me.com/motoda_01_01



2011年度企画予定

- 第104回企画 深井聡一郎展〈立体〉 11月7日(日)～12月3日(日)
- 第105回企画 牧ゆかり展〈絵画〉 12月12日(日)～12年1月21日(日)

*休館日は原則として日曜・祝日・中京大学の休業日ですが、日曜・祝日であっても開館する場合があります。

名古屋駅からの経路〈所要時間 25 ～ 30分〉

〈下車駅はすべて「八事（やごと）」〉

- ①地下鉄桜通線「野並（のなみ）」行き乗車、「御器所（ごきそ）」で地下鉄鶴舞線「赤池」または「豊田市」行きに乗り換え。
- ②地下鉄東山線「藤が丘」行き乗車、「本山」で地下鉄名城線右回りに乗り換え。
- ③JR中央線乗車、「鶴舞」で地下鉄鶴舞線「赤池」または「豊田市」行きに乗り換え。
- ④名鉄、JR中央線または東海道線乗車、「金山」で地下鉄名城線左回りに乗り換え。

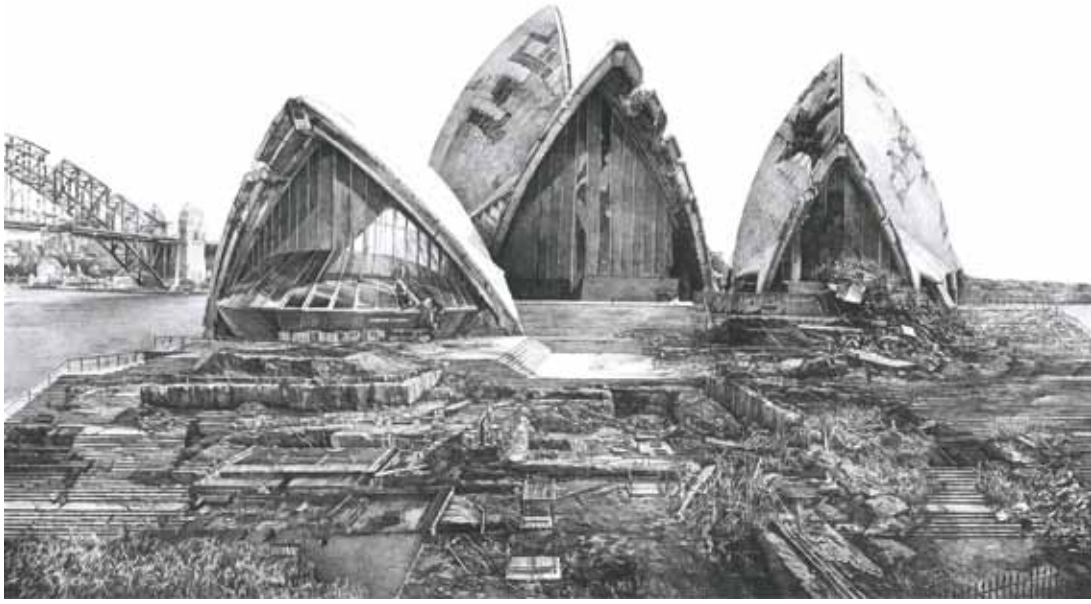
地下鉄名城線・鶴舞線《八事》駅下車。北改札口を出て左、5番出口直結。

*会場は名古屋キャンパス・センタービル正面玄関からガレリア（吹き抜けの屋内広場）を経由し、大階段を上った右側正面。銀行ATM、412教室、証明写真ボックスの並びです。
*駐車場の用意はありません。公共交通機関をご利用下さい。

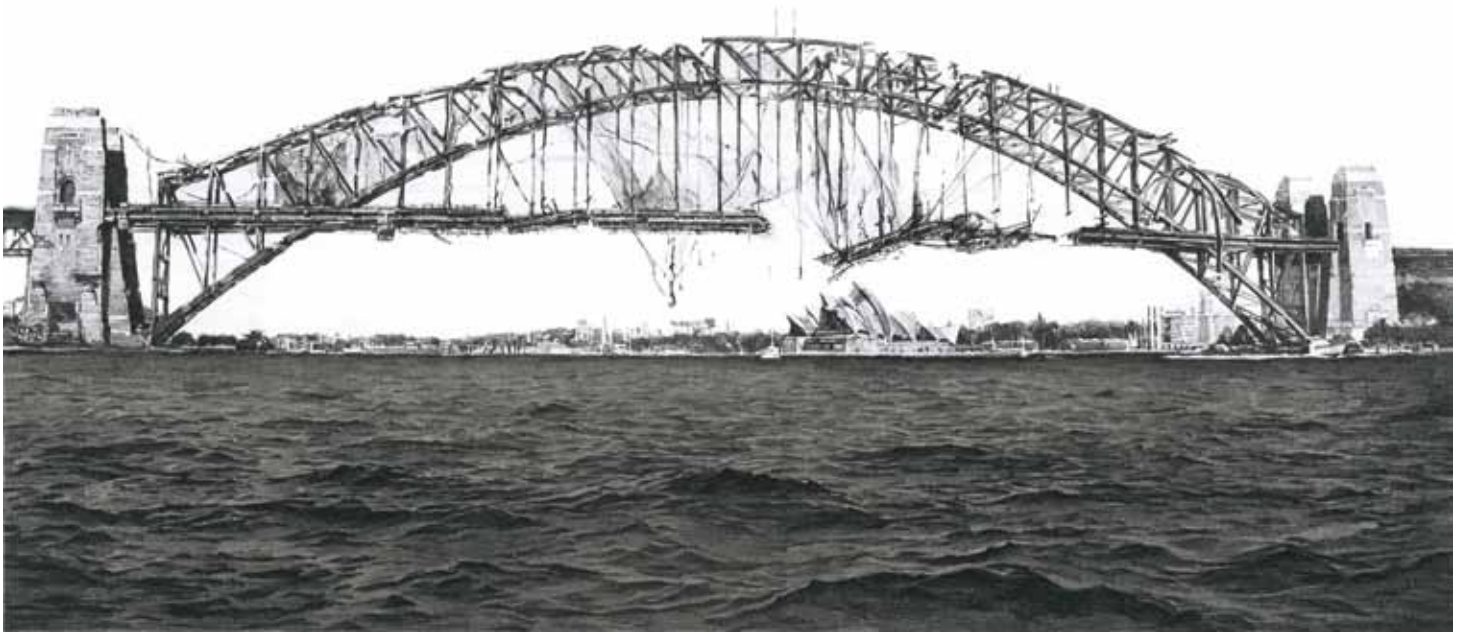
■本展会期直前の9月中旬、(株)エディション・トレヴィルより元田久治第一作品集『NEO RUINS』が出版されます。
<http://www.editions-treville.net>

◀「Indication-Flinders Street Station3 (Melbourne)」32.7×39.5cm リトグラフ 2010年

Photos; Courtesy of Editions Treville



▼ 「Indication-Harbour Bridge (Sydney)」
27.5×55.5cm リトグラフ 2010年



▲ 「Indication-MCG (Melbourne)」 20.3×55.5cm リトグラフ 2010年

▼ 「Foresight-Stadium1 (AT&T Park, San Francisco Giants)」 88×178.5cm リトグラフ 2010年

